

第4回協議会及び協議会後の意見(概要)

1月10日の第4回協議会における委員の意見及び、第4回協議会開催後、ご意見提出用紙でいただいた意見の概要です。

内容構成

- 1 道路についてのご意見
- 2 交通ネットワークについてのご意見
- 3 地域の魅力についてのご意見
- 4 協議会開催後のご意見

1 道路についてのご意見

道路の整備状況

- ・舗装が傷んでいる箇所がいたるところにあり、バイクで通るときに危ない。
- ・自転車道の舗装が劣化しており、且つ根上がりのため、舗装面に凹凸がある。雨が降ると凹んだ部分が水浸しになり危険なので、補修してほしい。
- ・残堀のいなげやの南では、大雨の際に排水が間に合わず、車が徐行しなければならない道がある。
- ・道路整備については舗装の良し悪しはあるが、市も優先順位をつけて補修工事を行っていると感じる。
- ・残堀街道の歩道が狭いとの話があったが、地域住民からすると、残堀街道を通らずとも生活道路を通して駅まで行ける。道路拡幅について、全ての希望を実現することは難しいと感じる。

歩道の歩きやすさと安全性

- ・歩道と自転車の通行空間が車道より1段高くなり、高低差ができていると安全である。
- ・歩いたときに地域の良さがよりわかるので、歩きやすいような道を考えたい。市内は車道より歩道が高くなっているが、民家等の出入口が全て切り下げられており歩きにくいので、改善されると良い。
- ・残堀川周辺や野山北公園自転車道にはベンチや椅子がある。生活道路沿いは個人の所有地となっているため、ベンチを置くのは難しいが、道路整備の際に生じた残地であれば可能かもしれない。

2 交通ネットワークについてのご意見

交通空白地域のネットワーク

- ・西武拝島線の武蔵砂川駅と西武立川駅の近傍に南北方向の道路があるが、そこを通るバスがない。昭島行きはあるものの、本数が少ない。
- ・西武拝島線に接続しないとMMシャトルの利便性は低い。

- ・道路が拡幅しバスが通るなど、交通は便利になってほしいと思うが、そのためにはNo. 4 駅周辺の魅力や利便性の向上が必要である。。

むらタクの利用

- ・免許を返納したくても、むらタクの利用申請範囲外で利用できず、高齢でも自家用車を運転するしかない状況がある。
- ・むらタクを使えない、使い方がわからないという方の話も聞くので、ソフト面で上手く対応できないか。ハードの整備だけではなく、利用方法をサポートするようなソフト面の対策を考えて行かないとうまく機能しない。

交通ネットワークの維持・確保

- ・吉祥寺では、運転士不足のため利用客がいるにも関わらず路線バスの大幅な減便や廃止があった。いくらルート等を検討しても、運転士を確保できなければ意味がない。
- ・高齢化社会を迎える中で、市内の公共交通網がないと移動ができなくなってしまう。赤字でもMMシャトルを運用し続けられるようなシステムを考えておかなければならないのではないか。
- ・運転士不足に関しては、自動運転化が海外で進んでいる。すぐに対応するのは難しいかもしれないが、いずれそうせざるを得ないのではないか。

3 地域の魅力についてのご意見

地域の特産物や伝統芸能

- ・かてうどん屋が各店舗趣向を凝らしている。また、No. 4 駅周辺に狭山茶をメインとした茶店や和菓子の店が欲しい。
- ・No. 4 駅の近くに武蔵村山市唯一の酪農家がいる。市内の学校給食にそこで生産されたアイスが出る。そういった地元の魅力を使えると良い。
- ・駅前に店舗というのも良いが、広いスペースだけ整備し、トレーラーハウスを設置して店舗として利用できれば、コストはかからないし撤去もしやすい。また、見た目の良いトレーラーハウスがモノレールから見えると降りたくなる駅になり、そこから更に狭山丘陵等の地域資源に繋がるようになれば、魅力的な発信ができるのではないかと。
- ・農家が直売している野菜で良いものがないか探しながら歩くのが楽しみであり、時間が遅いと売り切れていることもあるので、皆さん魅力だと感じているのではないかと。
- ・伝統芸能についても、獅子舞の他にきおんはやし祇園囃子があるが、大人世代で笛を吹ける人がいなくなっている。神輿も担ぎ手が少なくなっている。そういったことへのバックアップなどソフト面でなにかできないか。
- ・この時期は三ツ木交差点から富士山がきれいに見える。これもひとつの魅力だと考える。

自転車道を活用して地域の魅力を繋ぐ

- ・野山北公園自転車道、残堀川自転車道をそれぞれ単体でアピールするのではなく、野山北・六道山公園に着目し、そこに通じる基幹道路として自転車道を活用する方が魅力をより高められるのではないかと。
- ・モノレールで遠くからも人が来やすくなるため、桜並木や残堀川だけでなく、No. 4 駅が狭山丘陵に繋がる玄関口であることをアピールしていくと良い。例えば、No. 4 駅から狭山丘陵を訪れて、様々な体験をした後にかたくりの湯を利用するようなルートをアピールしてはどうか。
- ・魅力的な施設等を作っても、情報発信等のソフト面の対策を推進しなければ廃れる。QRコードでポイントを集めてお店で使えるようにするなど、色々な案が考えられる。
- ・桜並木や残堀川を結ぶ形でサイクリングロードの魅力を出していくことも良いと感じた。また、東大和市や瑞穂町と連携が取れれば更に魅力が増す。
- ・まちづくりのテーマである「桜舞う 憩いのまち」について、桜が咲いていない残りの11か月をどうするのかと悩んでいた。歴史民俗資料館もあるので伝統芸能を学んでもらうことや、ふるさと納税の返礼品にもなっている村山大島紬の加工品を駅前店舗に置いてもらうなど、自然を通しての魅力発信という意見は良い。
- ・No. 4 駅から野山北公園まで歩くと距離があり、狭山湖の方へは歩けないので、自転車のレンタルがあると良い。

自転車道や既存施設等の活用

- ・自転車道のポテンシャルは高いと思うが、認知度は低いと感じている。イルミネーションなど、何か新しい取り組みを行う必要があるのではないかと。桜の時期でないときに人に来てもらうという視点で、提灯を配置して風情を思わせるなど、四季折々に自転車道をうまく活用しながら様々な地域資源に向かわせるようにできないか。
- ・山王森公園が駅近くにあり、自転車道に直結している公園でもあるので、スケートボードやMTBができる施設をつくと若者を呼び込めるのではないかと。
- ・里山民家をもっと活用したい。近頃整備された池に張り出した板張りのデッキはもっと活用できる。
- ・自転車道のトンネルは照明など少し手を加えて魅力あるものにできないか。市民から募集して何かできれば良い。地元の若者のバンドなどイベントの開催も良い。
- ・桜並木沿いの民家は、個人でカフェ等として使えないだろうか。ちょっとした売り物や手芸をすることができれば、桜並木の活性化につながり自転車道が生きてくる。
- ・自転車道を使ってかたくりの湯や狭山丘陵沿いのハイキングコースを回遊して、さらにモノレールで西側に行けるようなルートをつくとお金をかけずに地域資源を活用することができる。

情報発信等

- ・武蔵村山市はスポーツ都市宣言をしているが、イベントを開催しても参加者が少ない。周知も下手で外部から人が来ない。市内の人も知らないという状況なので、運動と他の魅力を結びつけて検討してもらいたい。
- ・軽便鉄道のパンフレットは羽村市の観光協会が作成しており、武蔵村山市の観光まちづくり協会は協賛という形になっている。武蔵村山市も独自にアピールするべき。
- ・地域の魅力を発信する際、個人では限界があるため、市のバックアップが必要である。

4 協議会開催後のご意見

※詳細（全文）は参考資料3に掲載

駅近傍の土地有効活用の推進等

- ・インフラの再生へ：巨大な鉄塔を低層化・展望デッキデザイン化し、町の圧迫感を取り除きながら『ライトアップされた街のシンボルタワー』へ移行
- ・育児の革新へ一歩前進：保育園送迎ステーションとクリニックを駅前で完結させ、共働き世代が最も『住みたくなる町』への誘導
- ・地域活性化への期待：「道の駅」機能により、市伝統の武蔵村山大島紬や地元の農産物・村山うどんなどを軸にした新しい『賑わいと交流の創出』をはかる
- ・防災の拠点：民間企業が保有するインフラ機能を地域に開放し、災害時に「ここに行けば何とかなる」という究極の安心感を市民への提供

旧青梅街道北側の交通安全等

- ・第二小学校の北（歩道橋）は歩道橋の下を横切る人が多い。旧青梅街道の車、自転車、人が安全に通行できるようになったらより便利になる。
- ・都市計画が進み、主要市道第17号線の拡幅整備、残堀街道とのスムーズなつながりができたら、車と自転車と人、住んでいる人と観光に来ている人の住み分けと繋がりが持てる。
- ・立川に住む方から、行くために準備が必要な奥多摩に対し、野山北公園や里山民家は子どものいる家庭でも気軽に行けて魅力的だという話を聞いた。

バスネットワークについて

- ・どんなに良い交通ネットワークを構築したとしても運転士が確保できなければ限定的な機能とならざるを得ない。一方、高齢者の通院や日常の買い物等の移動確保は日常生活の生命線である。
 - 1) 市内交通網はコミュニティバス、駅直結は路線バスに住み分ける。
 - 2) コミュニティバスは高齢者の利便性に重点を置き、病院・スーパー・市施設をつなぐ複数の路線設定を行い、無賃又は低運賃化を図る。
 - 3) コミュニティバスの運転士確保については、重点課題として市による積極的支援を検討する。
 - 4) コミュニティバスは終始損益ゼロを維持するため、市財政に事業費を計上する。

地域の魅力について

- ・地域の魅力として、自転車道、残堀川、桜並木、山王森公園等が単独ではなくそれぞれが連携した複合的な視点からの魅力創出と将来発展のアプローチを構築する。
- ・住民参加はもちろん多くの観客（乗降客・顧客）を市外から取り込むことを目指す。
- ・野山北・六道山公園に通じる第4駅を新たな起点に、野山北公園自転車道や狭山丘陵内にルートを設定し、発展の底上げを図る。